

伝えられなかった日本の心

兵庫県 関西学院中学部

3年 矢崎 未来

僕はこの夏1ヵ月間、オーストラリア、アデレードの高校に短期留学した。行ってまもない時は、みんなが話す英語のスピードが速く、自分が知っている語彙ごいも少ないので、なかなか質問が聞きとれず、またうまく答えられないことが多かった。

僕がホームステイをした家には、高校1年生のザック君という子がいて、彼は学校で「外国語」として日本語を学んでいる。僕は基本的に彼が受けている授業にいっしょに参加することになっていたの、彼の日本語のクラスの授業もいっしょに出席した。

僕は日本で生まれ育って15年。あたりまえだが、毎日ずっと日本語を話している。英語はイマイチだけど、海外の日本語のクラスなんて楽勝だ、そう思っていた。

その日の日本語のクラスの授業で見せてもらった教科書には、「日本では家に入るときに靴を脱いでスリッパを履く」と書いてあった。するとクラスメートの一人が僕に、「家の中の畳のところでもスリッパを履くのか」と聞いてきた。もちろんそれは「No」だ。が、「Why? (なぜ)」と聞かれると僕は、「……」。

答えられなかったのである。それは、質問がわからなかったわけでもなく、僕が英語の語彙が少なく説明できなかったのでもなく、「なぜだめなのか」という理由を僕が知らなかったからである。また、「日本の家には床の間という場所がある」と書いてある部分が紹介されたときには、「床の間で遊ぶことはできるの?」と聞かれた。

(え……遊ぶって何するの?) と思った僕は、かろうじて、「No」と答えることはできたが、これまたどうやって「床の間」というものの役割を説明したらいいのか、途方に暮れた。

生まれて15年も日本語を話し、ずっと日本に住んでいるのに、実は日本の文化をよくわかっていない自分に気づいた。「えっ。日本人なのに知らないの?」というようなりアクションをするクラスメートを見て、僕はかなり焦った。

1ヵ月はあっというまに過ぎ、いざ帰国となったときに、僕は二つのことを決心した。一つ目は、「英語の勉強をもっとがんばろう」ということ。もっと英語がわかるようになれば、オーストラリアの人ともっとなかよくなれるだろうし、彼らの文化、生活習慣をもっと理解できるようになるはずだ。そしてもう一つは、「日本のことをもっと知ろう」だ。帰国したら、日本の文化に関する本をたくさん読もう。そうすれば、日本のことを知りたいと思う外国の人に、日本のよさをもっとたくさん伝えることができるはずだ。

帰国して、羽田から伊丹に向かう飛行機の中からは、雲の間にくっきりと富士山が見えた。日本を代表する象しょう徴ちゆうである富士山を見ながら、「次、オーストラリアに行ったときには、自分の言葉でこの富士山の美しさ、日本のすばらしさを自分の言葉で伝えたい」、そう固く決意した。